

編集後記：桜の時期があっという間に終わり新緑の季節となりました（私がこの原稿を書いているのは5月の半ばです）。新型コロナウイルスの影響で自宅に籠る時間が増え、季節の移ろいを肌で感じる機会が減ったような気がします。

そんな近頃の人間活動の変化が大気環境やその観測にも影響を及ぼしつつある、というニュースを目にしました。ロックダウン等で現業観測の維持が困難な地域があるだけでなく、航空便の往来数も激減しているため気象予報に使われる観測データの世界的な減少が懸念されているそうです（WMOのプレスリリースあり）。一方で、社会経済活動の制限により、皮肉なことに、大気汚染物質の濃度が下がったことが衛星観測か

ら確認されたそうです。二酸化炭素排出量の削減率も短期的ではありますがかなり高かったとか。こういったニュースから、私たちの研究対象は人間活動、特に経済維持活動なしには語れない状態だということを、改めて思い知らされます。

私の身近なところでは、予定していた船舶観測が延期になり、鬱々とする状況がもう少し続きそうですが、ひと月余りこなしてきたテレワーク生活も板についたようで、なかなか悪くないと感じています（通勤時間を省けるのが最大の利点）。生活様式の変化が求められる中で、自然との触れ合いも保ちながら、誰もが、心身共に健やかに過ごせたらと切に願います。

（藤田実季子）